

市役所の庁舎内を歩くと、美術品などがあちこちに展示され、風景画、抽象画、彫刻、水中写真、能野焼など多岐にわたります。

1階玄関に入ると、右上方の壁に油彩画「旧西之表港（昭和20年代後半）」が目に入ります。旅客船「橘丸」や貨物船、漁船、岸壁近くに材木らしいものが積み上がり、倉庫群の奥には家並みが続きます。緑濃い山並みが包む中に、今は姿を消した池田の磯、白砂青松の城ノ浜を遠望し、かつて私が少年時代に釣りや海水浴をした記憶がよみがえります。作者の曰高部氏（1931〜2004）の作品はほかにポルトガルの姉妹都市ゆかりの「ヴィラ・ド・ビスポの教会」など約百点が市に寄贈されています。

同階にある市民の休憩室「おきがるくむ」入り口には、女性の裸像をかたどった彫塑「空のコラージュ」―ゴチック―が存在感を示しています。作者の野添浩一氏が2010年の第42回日本美術展覧会で特選に入賞したのを記念して寄贈したものです。野添氏は当時、古田小学校の教頭を務めていましたが、寄贈作品は国上中学校在職時に制作したそうで、教職を退いた後も活発な創作活動を続けています。

エレベーターの各階昇降口わきには種子島宇宙センターから打ち上げられたロケットの写真。3階の市長室前には50号機が最後となったH・2A型とともに後継機であるH・3型機が並びます。いずれもJAXA（宇宙航空研究開発機構）から寄贈されたもので、順次掲示を入れ替えています。

市民の皆さんが市庁舎を訪れるのは、証明書発行手続きなどで時間の余裕はあまり無いでしょうが、待ち時間などに鑑賞していただければと思います。

